

平成30年度JKA補助事業

会議名	開催地	開催日	参加国・機関及び人数	出席者(報告者)	概要
ISO/TC282/WG3	オーストリア、ファーシュニツ	5月28日～29日	オーストリア、オランダ、イスラエル、日本 10名	樋口 賢治	日本薬局方記載の分画分子量6000の限外ろ過膜を本文に取り込む日本の主張に対して、本会議にて了承され、2018/1までにドラフト文書として発行されることとなったのは前回の会議での成果であったが、今回は限外ろ過の運用方法を規定する完全性試験が盛り込まれることとなった。このため、世界各国への波及効果が期待される。更に、すでに改定された欧州薬局方における注射用水の製造方法が蒸留法以外にも膜法も許可要件となっているが、まだ運用方法が確立されていない為、ヨーロッパの需要も見込まれる。
IEC/TC57/ WG21	カナダ、カルガリー	6月21日～6月22日	ドイツ、アメリカ、フランス、カナダ、IEC、日本 7人	中村 正雄	新ユースケースの追加の必要性と、日本提案の蓄熱槽と蓄電池の新ユースケースをプレゼンした。日本提案の新ユースケースを追加する形で、IEC TR 62746-2 Use cases and requirementsを改訂することになった。WG21だけでなくWG17(分散型電源)にも新ユースケースを提供することを提案した。WG17に新ユースケースと提供することになった。今後WG17と連携を図る。
ISO/TC178/WG5	カナダ、トロント	6月26日～28日	ドイツ(3)、アメリカ(1)、オーストリア(3)、オーストラリア(1)、イタリア(1)、日本(2) 計6か国、11名	坂田 幸司	1. 各国のエスカレーター法規に関する報告 アメリカ、日本、オーストラリア、欧州は各委員から報告を行った。南アフリカ及び中国は欠席のため、議長から事前報告内容が紹介された。 2. ISO/TR 14799-1(エスカレーターと動く歩道の各地域の安全規格比較) 欧州規格(EN115-1:2017)、北米規格(ASME A17.1-2016/CSA B44-16)、日本規格及び標準(2016年現在の法令等)の相互比較表で記入がなかった北米規格を追加する作業を行った。また、北米規格で追加された項目について、欧州規格及び日本規格及び標準で該当するものを次の会議までに追加することとした。 3. ISO/TR 14799-2(ISO/TR 14799-1の安全規格の要約とコメント)の更新 更新作業方針について、ISO/TR 14799-1で挙げた規格から必要なパラメータ及び数値をまとめていくことを確認した。 4. ISO/TR 14799-1/-2の作業スケジュール 14799-1比較表の見直しは、北米、日本ともに9月末までにWG5事務局に提供する。WG5事務局で統合した最終案を11月末までに各委員に配布する。
ISO/TC178/WG5	カナダ、トロント	6月26日～28日		田原 健剛	
ISO/TC39/SC10/WG1	フランス、パリ	5月28日～30日	7か国、フランスAFNOR、USA ANSI、オーストリアASI、ドイツDIN、UK BSI、スイスSNV、日本JISC 合計19名	道場 栄自	ISO 16092-プレス機械の安全、本シリーズは4パートから構成され、今回はISO 16092-2(機械プレス)及びISO 16092-4(空圧プレス)DISドラフトについて審議が行われた。パート2については、日本のJIS B 6410がオリジナルの提案である。今回は、①AOPDによる保護停止に関する安全機能のミュートイング、モード切替えの構成図を提案し、採用された。②機械ブレーキの試験間隔と方法、サーボプレスのSingle stroke functionのリスクアセスメントにおけるPL(パフォーマンスレベル)については、合意に至らず、DIS投票に掛けコメントを提出し次の会議で審議することになった。パート4については、DIS投票に掛けコメントを提出し、次の国際会議で審議することになった。更に金属加工用シャーの保護方針についても意見交換を実施した。
ISO/TC39/SC10/WG1	フランス、パリ	5月28日～30日		畑 幸男	
ISO/TC39/SC10/WG1	フランス、パリ	5月28日～30日		齋藤 剛	
ISO/TC39/JWG7	ドイツ、フランクフルト	6月5日～6日	3か国(ドイツ、イラン、日本)16名	堺 弘司	ISO3408(ボールねじ)第2部の改正提案(ISO/WD 3408-2)により、ナット寸法が新たに規格化されることになったが、ナット寸法は、JIS規格(参考値)とDIN規格で大きな違いがあり、提案された改正原案はDIN規格をそのまま踏襲する案となっている。このため日本をはじめとするアジア圏内で浸透しているJIS規格(参考)をISO規格に採用することを日本から提案し、プレゼンを実施したことにより、改正原案(DIN規格)と併記する形で日本提案を採用することが決定され、日本がアジア圏で浸透しているナット寸法追加案を作成することになった。なお、ナット寸法は循環方式別(ボールねじの鋼球を循環させる機構)によって異なるため、ナット寸法規格表は循環方式別に作成することで合意を得た。
ISO/TC39/JWG7	ドイツ、フランクフルト	6月5日～6日		飛ヶ谷 正博	
ISO/TC232/WG4、WG5、WG6	アメリカ、モントレー	6月11日～14日	計13名:米国(3名)、フランス(4名)、中国(2名)、ドイツ(1名)、日本(3名)	大槻 卓	TC 232/WG 4:ISO/DIS 29992の議論。本会の議論に基づきDISを修正。FDIS投票の実施に合意。 TC 232/WG 6:ISO/WD 29994の議論。ISO29993との差分を明確化。引き続きWD作成を行う。
ISO/TC232/WG4、WG5、WG6	アメリカ、モントレー	6月11日～14日	計13名:米国(3名)、フランス(4名)、中国(2名)、ドイツ(1名)、日本(3名)	中村(櫻瀬) 公美	TC 232/WG 4:ISO/DIS 29992の議論。FDIS投票の実施に合意。 TC 232/WG 5:ISO/WD 29995の議論。引き続きWD作成を行う。 TC 232/WG 6:ISO/WD 29994の議論。引き続きWD作成を行う。
ISO/IEC/JTC1/SC17、WG1	カナダ、ナナイモ	6月26日～28日	英、米、仏、独、NZ、日 6か国18名	前田 めぐみ	・ISO/IEC 7810および10373-1の改定のためのCD投票2回目の結果を確認。日本のコメントは合意が得られた。ドイツからのスリーホイール試験の仕様の変更提案があり、具体的な規格の詳細までの合意に至らず、結果として7810も含めて3回目のCD投票へとすすむこととなった。その他、10373-1についてフランスより塩水噴霧試験後の処置に関する提案があり、条件付きの処置として合意。 ・ISO/IEC10373-1とISO/IEC24789-2のエディターが交代。 ・ISO/IEC 18328-2の改定のためのWDを次回国際会議にドイツが準備することになった。 ・ISO/IEC24789-1.2の改定にむけて、各国より試験方法の提案あり。日本もすすめているテーパ摩耗試験の提案を次回国際会議にて行う予定。
ISO/TC37/SC5/WG2	中国、杭州	6月10日～15日	約200名 日本、ドイツ、アメリカ、アルゼンチン、コロンビア、ブリュッセル、カナダ、オーストラリア、台湾、南アフリカ、アイルランド、ポーランド、オーストリア、ギリシャ	Andrew Migita Meehan	ISO 20228 ・PL EULITA (Austria) /Liese Katschinka氏より簡単な報告があり、年内に発行の予定である事が報告された ・大多数意見としてFDIS投票へ進むことが確認され、投票時期は9月ごろを予定 ISO 21998 ・PL USA/Izabel Souza氏より提示されたドラフトを討議した ・医療現場の範疇について大部分の時間が投じられ、まだ枠組みは決まっていない ・7/8月ごろバージョンアップしたものを回覧する予定 ISO 23155 ・PL AIIC/Haris Ghinos氏より提示されたドラフトを討議した ・討議内容は、発行済み通訳規格との足並みなど、枠組みの話に終始した ・本規格は、requirements & recommendations の両方になることが確認された ・WDの1号は9月ごろに回覧、コメント受付期間は6週間を予定 ・36ヶ月を全体の作業期間として仮決めた

IEC/TC112/WG2、WG6、WG1、WG3、プレナリ会議	オーストリア、ウィーン	9月17日～21日	オーストリア、日本、ドイツ、アメリカ、カナダ、中国、IECセントラルオフィスなど、約60名	岡 壽崇	IEC/TC112/WG2にTR 61244-4のアシスタントプロジェクトリーダーとして参加し、当該規格の進行状況をセクレタリーに確認した。2018年末のDTR、その後Votingと移行することが報告された。また、高エネルギー付与放射線の照射効果に関する日本提案のプレゼンを行い、参加国からの支援表明があり、出席者が61244-5のプロジェクトリーダーとなった。 WG6、WG1、WG3にも出席し、各WGにおいて情報収集を行った。JNCに関連する議論としては、 ・WG6/IEC 61857-41 ED1の改訂において各国からのコメントには不明瞭な点が多く、改善案も示されていないので、自国コメントを持ち帰り1ヶ月を目処に明瞭なコメントおよび改善案を提示する ・WG1/IEC 60216-7-2の修正は日本の委員が主導するなどがあった。
ISO/TC178/WG4/TFRA	米国、ニューヨーク	8月28日～30日	アメリカ、フィンランド、スイス、ドイツ、日本 計5ヶ国・機関 14人	今井 一郎	(1)議題 次の1)から5)の議題について、プレゼンテーションがあった後、出席者で意見交換、今後の活動の方向付け、分担、マイルストーン、責任者を決議した。 1)WG4北京会議での活動報告資料の説明 2)リスクの低減のためのSIL格付け回路の寄与検討 3)サイバーセキュリティ支援のためのISO 14798の可能な役割検討 4)エレベーター／建物インターフェースに関係する例の評価 5)ISO 14798とprEN81-80:2018 (SNEL)の互換性評価 (2)今後の活動 会議メンバーをサブチームに分け、4月のフランクフルト総会での報告に向け、活動を継続してゆく。 サブチームは、SIL、建物インターフェース、保守・点検、エスカレーター(新設、既存)、規格改訂、ガイドライン作成の7チーム構成とし、日本は、建物インターフェースのサブチームリーダー及びメンバー、ガイドライン作成のサブチームメンバーとして参画し、活動してゆく。
ISO/TC178/WG4/TFRA	米国、ニューヨーク	8月28日～30日		福山 栄男	
ISO/TC178/WG4/TFRA	米国、ニューヨーク	8月28日～30日		伊藤 和昌	
IEC/SC77B/ MT12	ポルトガル、オリオン	9月3日～9月7日	イタリア、ドイツ、アメリカ、トルコ、フランス、フィンランド、スイス、日本 計15名	Hedderich Georg	1) 静電気放電イミュニティ試験 IEC 61000-4-2の改正に対する各国コメント77B/575/INFに対して今後の改正作業の方向性を審議した。次の点などの方針を決定し、次回2019年2月のPenang会議にてCDを発行することが決定された。 ・放電電流波形測定方法及び波形規定の追加。 ・各種機器に対する試験セットアップの見直し。 ・ウェアラブル機器に対する試験法を規定。 2) ダンプ波イミュニティ試験IEC 61000-4-18の77B/790/CDVの投票が可決し、FDISを準備し発行する。 3) 関連団体より問題指摘を受けているIEC 61000-4-5について、次回合同会議を開催することを決定した。
IEC/TC112/WG4、WG5	オーストラリア、ウィーン	9月17日～18日	WG4: AT(1名)、CA(1名)、CN(3名)、DE(3名)、KR(1名)、JP(2名)、US(1名) WG5: CA(1名)、CN(1名)、DE(5名)、FR(1名)、JP(3名)、NL(2名)	山野 芳昭	WG4 1. IEC 62631-2-1; 現行規格の改正を決定。 2. IEC 62631-2-2; プレゼン (by 山野(JP))とその質疑応答。本提案をNWIPとすることで合意。Project Leader (PL)は山野(JP)。 3. IEC 62631-3-1 Ed. 1及び3-2 Ed.1の改正案の説明。; PLは春原氏(JP))。 4. 112_406/CDV (IEC 62631-3-4)に関するRVCの審議; コメントはeditorialのみ。FDISなしで直接ISとすることで承認。 5. IEC 62631-3-12 ;Casting resinの抵抗率測定法、NWIPとすることを決定。 6. 薄物フィルムの誘電特性測定法の新規提案; 現行規格で対応可能との議論の後、検討継続。(中国提案)。 WG5 7. NWIP (複合ストレス下での撥水性の回復度の測定); WG3かWG5のいずれかから提案する。 8. NWIP (野外高電圧ストレス下での絶縁コート); WG3かWG5のいずれかから提案する。 9. IEC 60112 ED5(液滴法によるトラッキング評価法); 4-1, IEC 60112 CDVの滴下時間に関するプレゼンテーション(by 川口(JP))。滴下時間の許容値の表示を削除してFDISとして回付することで合意。
ISO/TC281及びWG3、ファインバブルセミナー	ロシア連邦、モスクワ	7月24日～7月26日	英国、シンガポール、韓国、中国、米国(web)、ロシア、日本 30名	ISO/TC 281 WG 3 Expert	・油分洗浄評価規格案(日本提案)は、会議で各国の事前コメントへの対応案を発表し、本文の一部を9月末までに修正後、DIS投票を実施することを決議。 ・塩分洗浄評価方法(日本提案)は、タイトルを変更し、9月末までにドラフト案を書き直し、DTR投票することを決議。 ・床洗浄評価規格案(米国提案)は、9月末までにドラフトを修正し、10月末までにドラフトを回覧後、NP投票することを決議。
ISO/TC281及びWG2、ファインバブルセミナー	ロシア連邦、モスクワ	7月24日～26日	アメリカ、ドイツ、スイス、フランス、イタリア、トルコ、フィンランド、日本 計15人	島岡 治夫	WG2会議では、日本提案の「マイクロバブルのサイズインデックス評価—オフライン測定」を審議。NP投票時のコメント修正案を提示し、7/8は了承された。1点のみ議長からの提案を待って、追加修正し、WDとしての修正案を回付することとなった。参加国の一部から本筋とは無関係なラウンドロビンテストの提案があったが、これを回避し長期化は避けられた。一方、再現性などのバックデータとなる測定例をAnnexへ追加し、内容の充実を図ることを検討して規格案に反映する。

ISO/TC281及びWG1、WG2、WG3、ファインバブル	ロシア連邦、モスクワ	7月24日～26日	英国、シンガポール、韓国、中国、米国(web)、ロシア、日本 30名	北川 順久	全ての審議において幹事国として対応案を示し、下記結果を得た。 1) FDIS 20480-2 一般原則-第2部: 一般原則: FDIS登録後、CSより標題の不適切さを指摘され、協議。標題変更を決議。会議後、FDIS投票に進展。 2) PWI 20480-3 一般原則-第3部: FB発生システムの用語: NP投票を決議 3) PWI 21256-1 洗浄応用-第1部: 塩分付着表面の洗浄試験方法: DTR投票を決議 4) CD 21256-2 洗浄応用-第2部: 機械金属部位の機械油付着表面の洗浄試験方法: DIS投票を決議 5) AWI TS 23016-1 農業応用-第1部: FBIによるレタスの成長性能を評価するための試験方法: DTS投票を決議 6) AWI 23016-2 農業応用-第2部: 大麦の種子発芽における成長促進効果の試験方法: DIS投票を決議 以上の日本提案の段階を進展させた。
ISO/TC281及びWG3、ファインバブルセミナー	ロシア連邦、モスクワ	7月24日～26日	英国、シンガポール、韓国、中国、米国(web)、ロシア、日本 30名	宇川 岳史	① オゾンファインバブル水による水質浄化規格案(日本提案)は、タイトルと規格番号の変更を決議。また、英国から新しいコメントが提示され、コメント処理が時間切れとなり、WDとして審議継続。 ② 微小有機体による水質浄化規格案(韓国提案)は、タイトルと規格番号の変更を決議。実験に時間を要するため、開発期間を3年から4年へ延長することで合意。
ISO/TC281及びWG1、ファインバブルセミナー	ロシア連邦、モスクワ	7月24日～26日	参加国: 英国、シンガポール、韓国、中国、米国(web)、ロシア、日本 参加者数: 30名	布施 剛之	FDIS登録中である一般原則-パート2: 一般原則(ISO/FDIS 20480-2)のタイトル修正を行う。中央事務局(CS)よりタイトル変更の打診があり、WG1及びTCにおいて協議しタイトル名変更を決議。FDIS投票へ進むことが確認された。日本が先行提案している予備業務項目案 ファインバブル(FB)発生システムの用語(ISO/PWI 20480-3)をプレゼンし審議。NP投票の実施を合意。韓国提案の承認済新業務項目 マイクロバブルベッドに関する用語(ISO/AWI 20480-4)を審議。CD投票の実施を合意。
IEC/TC112/WG5、WG1	オーストラリア、ウィーン	9月18日～19日	WG5: 計13名 6か国 CA(1名), CN(1名), DE(5名), FR(1名), JP(3名), NL(2名) WG1: 計30名 11か国 AT(1名), CA(2名), CH(1名), CN(3名), CZ(1名), DE(6名), FR(1名), JP(5名), NL(2名), SE(1名), US(7名)	川口 晶寛	WG5: (1)「複合ストレスによる疎水性の保持の測定」と「高電圧/屋外使用の碍子用の薄いコーティング材料」の2件を新規提案することになった。 (2) IEC60857(過酷な環境下-耐トラッキング性)はCDからCDVへ進む。(3) IEC60112(保証及び比較耐トラッキング指数)は、CDVにて試験溶液50滴滴下時間の許容値が拡大されたが、試験の信頼性確保の観点により、日本から修正案のプレゼンを実施した。結果として、50滴の許容値を削除する一方、1滴の滴下のtarget timeを明確化し、許容値の上限又は下限を狙った試験を避ける文面へ修正した。FDISへ進むことで合意した。 WG1: IEC60216-3(耐熱特性の計算方法)のCDコメントの審議と、計算用ソフトの紹介がなされた。このソフトがIEC60216-5、60216-6もカバーしているため、3規格の足並みを揃えて改正作業をすることになった。
ISO/IEC JTC1/SC31/WG1	ベルギー、ブリュッセル	10月9日～11日	以下の人数には、ネット会議参加を含む 日本 3名 独国 6名 中国 2名 米国 9名 英国 1名 GS1グローバル 2名 SC17 1名 SC17/WG3ミーティング(日本にて開催)数名	今井 博行	1. JIS X 0527国際標準化の日本提案が、NWIPとして来春の国際会議で審議されることとなった。 2. 日本提案の矩形QRコード(rMQR) NWIPが承認された。次回WG1までにNWIP投票終了予定。 3. ISO/IEC 21417のPEをWilfried Weigelt氏からHarald Oehlmann氏に変更する為の投票をSC31に要求することとなった。 4. DPM評価仕様プロジェクトISO/IEC 29158 CDのPEをSprague Ackley氏からHarald Oehlmann氏に変更する為の投票をSC31に要求することとなった。 5. Han Xin プロジェクトISO/IEC 20830の審議期限の最大延長適用をSC31に登録することとなった。 6. Han Xin プロジェクトISO/IEC 20830の2ヶ月CD投票をSC31に申請することとなった。 7. DPM評価仕様プロジェクトISO/IEC 29158 CDの審議期限の最大延長適用をSC31に登録することとなった。 8. 「Zoom ネット会議システム」に関してWG1が経験した問題点をJTC1に伝えて頂くようSC31議長にお願いすることとなった。 9. Convenorに議事録をSC31文書としてSC31に登録を依頼することとなった。
ISO/TC195及びTC195/SC2、TC195/WG5、WG9	ドイツ、ハンブルグ	9月17日～21日	中国(SAC)10名、ドイツ(DIN)12名、米国(ANSI)4名、フランス(AFNOR)5名、韓国(KATS)2名、スイス(SNV)1名、日本(JISC)4名 計38名(TC 195総会)	山口 達也	WG 5で行われた下記5件の定期的見直しに関する議論に参加した。 1 ISO/NP 15878 アスファルトペーパー/フィニッシャー用語及び商業仕様 2 ISO/NP 15643 瀝青結合材散布/吹付機用語及び一般仕様 3 ISO 15645 路面切削機械用語及び商業仕様 4 ISO 15688 ソイルスタビライザー用語及び商業仕様 5 ISO 22242 基本タイプ-識別及び記述 WG 9で審議中のEN/ISO 20500 シリウス-安全要求(下記7件)に関する情報を入手した。 Part 1: 共通的要求事項 Part 2: 路面切削用機械の要求事項 Part 3: 道路建設・リサイクル機械の要求事項 Part 4: 締固め機械の要求事項 Part 5: 舗装機械の要求事項 Part 6: 自走式フィーダの要求事項 Part 7: スリップフォームペーパー及び養生機の要求事項 また、TC 195総会及び新設SC 2第1回総会にも出席した。 SC 2の適用範囲が既存WG 5、WG 9と重複しておりSC 2への移譲が検討された他、新たにSC 4(仮)「道路建設機械」の設立が提案された。持ち帰った結果をTC 195国内審議委員会で検討するとともに、ISO/TC 195へフィードバックする。

IEC/TC109/MT1	イタリア、ミラノ	9月25日～ 9月27日	14名：仏2、伊2、独4、米2、丁1、蘭1、日2 メーカー：9、試験機関：3、試験／認証機関：2	成田 和人	①109/166A/CD(IEC60664-1 ed.3/2nd CD)に対して提出されたコメントの審議 (全285件、うち日本コメントは50件) →前回6月の東京会議の続きで、No.213から審議を再開した。 →2日間で無事にNo.285までの審議を終えた。 →次のステージ(CDV)に向けた準備作業を行うため二つのTFを設置した。 →CDVの発行は2019年3月頃の予定とし、その投票結果を審議するために、6月27日・28日の二日間、オランダのデルフトにて会議を行う。更にFDIS発行前の確認を行うために、9月9日～11日の三日間、フランスのニースで行う。 →IEC60664-1 ed.3のIS発行にようやく目処が立ちつつあり、日本がプロジェクトリーダーを担当するIEC/TR60664-2-1の改訂作業のスタート時期が考えられるようになった。 ②上記以外の議題 →TC64所管のIEC60364-4-44とTC109のIEC60664-1には密接な関係性があるが、Over Voltage Categoryの定義が微妙に異なることが指摘されていた。今後、両TCで整合する検討を行う。 →TC66/WG2からの質問事項に対する回答案の検討 →TC34からの質問事項に対する回答案の検討
ISO TC204/WG16	ハンガリー、ブダペスト	9月10日～ 9月14日	8か国(アメリカ、カナダ、フランス、ドイツ、イタリア、中国、韓国、日本)、15人	田中 清一	・ ISO/WD 17515 Part 2:“LTE V2X D2D”のWDのドラフトレビューを進めたが未了。 ・ ISO/DIS 17515 Part 3:“LTE-V2XLTE V2X mode”のDIS投票に対するコメントレビューを実施。 ・ ISO/NP 22738“Optical Camera Communication”について作成中のWDを紹介。 ・ ISO/NP 22418“Fast service announcement protocol (FSAP) for general purposes in ITS”の名称変更が提案され、承認。 ・ ISO/DIS 19414“Service architecture of probe vehicle systems”の状況確認。9月中にもDIS投票開始の見込み。
ISO TC204/WG17	ハンガリー、ブダペスト	9月10日～ 9月14日	30名、China, Japan, New Zealand, Australia, Germany, Cyprus, Belgium, Czech Republic, Korea	佐藤 雅明	・ 車両情報取得に関するワークアイテム 13185-4の進捗状況や、歩行者への旅行情報支援に関するワークアイテムである13111-2の議論があった。双方とも投票結果は承認であるが、フランス等からはスコープについて強いコメントが出されており今後の修正が必須。 ・ 車両への機能の追加・制御などを扱うPnP(21735)については、投票時の日本のコメントに基づき内容の修正方法を議論し、全て受け入れられた。 ・ 電動の小型モビリティに関する定義や標準化要素に関する議論や、Green-ITS(G-ITS)に関するワークアイテムのスコープについての議論が行われた。 ・ 新規提案は、位置測位の精度向上に関するワークアイテムである、G-ITSに関するワークアイテム、および環境負荷を計測するためのワークアイテム2つの4つが提案された。位置測位については他WGとも連携が深く、国内で連携しつつ注視していく。
ISO/TC178/WG4/TFC	カナダ、トロント	10月22日～ 10月26日	カナダ、アメリカ、イギリス、フランス、フィンランド、イタリア、オランダ、オーストリア、スイス、オーストラリア、日本 計12ヶ国・機関 17人	今井 一郎	(1)ISO 8100-1/-2、ISO/TS 8100-3の進捗 ISO/TS 8100-3は、発行準備が完了。ISO 8100-1/-2は、ISO編集者から修正の指摘を受けており、発行準備が遅れている。 (2)ISO 8100-1/-2の修正内容確認 ISO/IEC Directive Part2に基づいた指摘部分を確認、修正案を検討した。 (3)ISO/TS 8100-3の改訂 ISO/TS 8100-3の改訂のため、最新ISO、ASME及びJISの箇条番号比較表を次回までに作成する。 (4)CEN/TC10/AH17とのリエゾン会議 1)EN81-20/50の改訂版原案の変更点について質疑を行った。 2)CEN/TC10での規格開発状況の説明、2018年発行済規格5件及び発行予定規格20件の説明があった。
ISO/TC178/WG6	カナダ、トロント	10月22日～ 10月26日	カナダ、アメリカ、フィンランド、イタリア、オランダ、スイス、オーストリア、ドイツ、オーストラリア、イギリス、韓国、中国、日本 計13ヶ国・機関 28人	福山 栄男	(1)各サブグループの活動報告 ①SG1:ISO 8100-30 Lift dimensions(エレベーター寸法) ②SG2:Fire testing of doors(乗場戸の耐火試験) ③SG3:Accessibly(身障者対応) ④SG4:Evacuation and emergency(緊急避難) ⑤SG5:Planning and selection(交通計算) ⑥SG6:Seismic conditions(耐震対応) ⑦SG7:Comparison of worldwide safety standards(安全規格比較) (2)北米、欧州、日本の耐震規定の更新報告 日本からは、大阪府北部地震のエレベーターの被害状況について報告した。 (3)各国からの報告 日本からは、3つの安全装置JISを建築基準法告示に呼込む作業が進行中であることを報告した。
ISO/TC178/WG4	カナダ、トロント	10月22日～ 10月26日	カナダ、アメリカ、フィンランド、イタリア、オランダ、スイス、オーストリア、オーストラリア、イギリス、ドイツ、韓国、中国、日本 計13ヶ国・機関 31人	伊藤 和昌	(1)ISO/TC178/WG4/RATFの活動報告 8月のニューヨーク会議での議決事項は、WG4に承認された。 (2)ISO規格開発の進捗報告 ①ISO 8100-20 Global essential safety requirements(発行済) ②ISO/DTS 8100-21 Global safety parameters(発行済) ③ISO/TS 8100-22/-23 Conformity assessment procedure for lift (3)ISO/TC178/WG4/TFC活動報告 前日のTFC会議でのISO8100-1/-2のISO/IEC Directive Part2に基づいた指摘部分の修正案を継続検討した。発行の手続きについては、議長他が別途AFNORと打合せする。 (4)各国の安全要求事項に関する状況報告 事務局宛にメールにて各国から報告する。 UI Historic

ISO/TC189, TC189/WG1~11	ブラジル、サンパウロ	11月11日～11月14日		橋田 亮	ISO/TC189 ・WG7のコンピナーをGiorgio Timellini氏からAndrea Contri氏に交代した。 WG1 ・N 428新規項目の提案を踏まえ、ISO 10545-10:セラミックタイル - 第10部:水分膨張の決定の新しい作業項目を登録することが同意された。 ・N429新規項目の提案を踏まえ、ISO10545-15:セラミックタイル - 第15部:施軸タイルの鉛及びカドミウム溶出の測定を修正するため、新規作業項目を登録することが同意された。 ・ISO10545シリーズとして「Ceramic tiles - Part x : Determination of resistance to wear with a multi-attribute method」のタイトルで登録することが合意された。
ISO/TC189, TC189/WG1~11	ブラジル、サンパウロ	11月11日～11月14日	アメリカ、ブラジル、オーストラリア、インド、イギリス、メキシコ、ドイツ 日本、ベルギー、中国、カナダ、イスラエル、スウェーデン、トルコ、スペイン、イタリア、ポルトガル、タンザニア、フィリピン、ノルウェー 合計20カ国50名	高橋 正男	・高機能の機器が使用できるよう、ISO10545-2「寸法と表面品質の測定」を改正するため予備作業項目を登録することが同意された。 WG2 ・ISO13006「セラミックタイル-定義、分類、特性および表示」を改正するための予備作業項目を登録することが合意された。 WG3 ・ISO13007シリーズとして「Ceramic tiles - Specification of test substrate」を予備作業項目として登録することが合意された。 WG4 ・ISO10545シリーズとして「Ceramic tiles - Part x : tensile adhesion strength of multilayer tiles and tile adhesives」のタイトルで登録することが合意された。
ISO/TC189, TC189/WG1~11	ブラジル、サンパウロ	11月11日～11月14日		横井 弘喜	WG7 ・ISO/TC59(建物および土木工事)/SC17(建物および土木工事における持続可能性)のリエゾンにBill Griese氏を担当とすることで合意された。 WG9 ・ISO14448「外装タイル張り用低弾性接着剤」を改定するため、予備作業項目を登録することが同意された。 WG10 ・「Ceramic tiles - Slip resistance of ceramic tile surfaces」を予備作業項目として登録することが合意された。
IEC/TC123,123/WG1,2,AHG3	フランス、パリ	9月3日～9月4日	イギリス、フランス、ドイツ、カナダ、スウェーデン、オランダ、インド、韓国、日本、IEC 参加人数:23名	永原 淳一	Strategic Business Plan (SBP) 及び各WGの今後の取り組みについて議論。SBPに関する主な意見は以下のとおり。 ・TC123ではISO55001全体をスコープにして送配電設備固有の内容があるか検討すべき。ただし、各国・企業にて定めるべき事項については規定しすぎないこと。 ・機器仕様、災害対応等もアセットマネジメントに関係があるため、スコープに入れて検討すべき。 ・各機器のTCに対し、アセットマネジメントで用いるHealth Index等に関する共通のコンセプトを提示すべき。 これらの意見を踏まえてSBPを修正のうえ、今年11月に東京で開催されるWG及びプレナリ会議において、再度議論、審議を行うこととなった。 なお、WG1では主要な用語に関する議論を開始し、WG2では事例に関する情報収集を開始することとなった。
ISO/TC 232,232/WG 4,WG 5,WG 6	中国、杭州	9月17日～9月21日	計24名:米国(3名)、フランス(4名)、中国(10名)、ポルトガル(1名)、ドイツ(3名)、日本(3名)	吉川 厚	TC 232:ISO 21001の移管、ISO 29991の改訂、ビジネスプランの改訂、コミュニケーション戦略の作成、私立探偵サービス規格の提案についての議論。 TC 232/WG 4:ISO/DIS 29992の議論。まもなくFDIS投票が開始される。 TC 232/WG 5:ISO/WD 29995の議論。最新のWDがCD登録される。 TC 232/WG 6:ISO/WD 29994の議論。引き続きWD作成を行う。
ISO/TC178/WG8	アメリカ、ニュージャージー	10月29日～10月31日	アメリカ(5)、イタリア(1)、オーストリア(1)、スイス(1)、フィンランド(1)、中国(1)、日本(2) 計7か国、12名	佐藤 慎史	(1)昇降機に関するEMC規格であるISO 8102-1 (Emission) 及びISO 8102-2 (Immunity) のDIS投票時に出された各国及びISO事務局意見に対する回答について審議し、その最終回答をまとめた。 (2)エスカレーターの機能安全規格であるISO 8102-6 (PESSRAE) のFDIS発行にあたり、ISO事務局から提示された文書作成ルールに関する指摘事項に対する意見を確認し、最終回答をまとめた。 (3)エレベーターの安全規格として発行が予定されているISO 8100-1/2に関し、その整合規格である欧州規格 (EN 81-20/50) の改訂審議が行われている。改訂前後の変更内容として、エレベーターの安全装置に関するプログラマブル電子システムの規格であるISO 22201-1 (PESSRAE) にも影響があることから変更の内容を確認し、今後の課題について審議した。
ISO/TC178/WG8	アメリカ、ニュージャージー	10月29日～10月31日		小野寺 隆	
IEC/TC 99/MT 4	オーストラリア、シドニー	10月3日～10月5日	日本、スウェーデン、ノルウェー、ドイツ、オーストラリア 計10名	高尾 登	・IEC 61936-1(交流1kV超過の電力設備 - 第1部: 共通規則)の次期改定を検討するMT 4としては、第6回目の会議である。 ・2016年3月に、現行のIEC 61936-1 Ed.2.1への各国への改定意見募集(99/154/DC)があり、その各国コメント(99/158/INF)の対応審議とそれを反映したCD(委員会原案)の作成を目的としている。 ・選別された審議対象コメント161件のうち、未了である50件のコメントについて審議した。 ・議論は全ての項目について、一つ一つ細かく行われたが、全般を通じて、要求事項(shall)と推奨事項(should)、許可事項(may)の使い分けや考え方などに、各国の意見が集中した。 ・3日間の会議日程をフルに使い、予定された審議をすべて終了することができた。 ・今後、2018年内には、審議結果を反映したCDとRR(Review Report)がTC 99より各国内委員会に回付される見込みである。
IEC /TC108/Plenary & HBSDT	韓国、釜山	10月23日～10月26日	日本、アメリカ、カナダ、韓国、オランダ、デンマーク、ドイツ、ノルウェー、メキシコ、ベルギー、南アフリカ、アイルランド、スウェーデン、イギリス、中国、シンガポール、トルコ、インド、オーストラリア、フィンランド、スロベニア 計21か国54人	佐藤 幸一	・IEC 62368-1第3版が発行されたとの報告、その第3版を土台に、次のDC発行の前提となる各新規提案の審議があった。 ・IEC/TR 62368-2第3版のためのDTRの修正提案の審議。今後IEC/TRの発行に進める。 ・108/700/DC(IEC 62102の原案)に対する各国のコメントの審議。一部案件をAdHoc Groupで検討した後2nd DCを発行する。 ・IEC 62368-3第1版の修正提案を審議。一部修正と共に、前半と後半を分けて2つのIEC規格として発行することを検討する。但し、ACOSとの協議が必要。 ・IEC 60950-1及びIEC 62368-1に関する解釈質問(Interpretation Panel Question)を審議した。また、報告があったCTL Decision sheetの内容を確認した。 ・TC108の組織、SBPの改訂案、ACOSに参加する委員の交代案などの審議。

IEC /TC108/Plenary & HBSDT	韓国、釜山	10月23日～10月26日	日本、アメリカ、カナダ、韓国、オランダ、デンマーク、ドイツ、ノルウェー、メキシコ、ベルギー、南アフリカ、アイルランド、スウェーデン、イギリス、中国、シンガポール、トルコ、インド、オーストラリア、フィンランド、スロベニア 計21か国54人	根津 尚一	1. 関連TC/SCのStatus, update確認 2. IEC 62368-1 next version新規提案 IEC 62368-1のScopeが現行規格のIEC 60065及びIEC 60950-1の全てを包含することより、片方の製品群の基準に合わせるがために、もう片方の製品群に起きる不具合に対する提案が多かった。関連する日本提案においても、再検討課題があるため、次回までに提案文書を再度纏め、次回の国際会議で再提案する。 3. 108/708/DTR (IECTR 62368-2)コメントレビュー: テクニカルコメントの審議 4. IEC 62368-3コメント対応 次の版では、4章と5章を別文書にする、別規格にするなどの理解しやすい規格に変更する予定。 5. 108/700/DCコメントレビュー (IEC 62102): テクニカルコメントの審議 6. IEC 62368-3 Q&A対応 7. CTL Provisional decision sheets, OSM Decision sheetの確認: TC108としては特にコメントなし 8. 現行IEC 62368-1の解釈の審議
ISO/TC313	イタリア、ミラノ	10月10日	イタリア、ドイツ、イギリス、スイス、アメリカ、日本5名	江口 孝男	ISO/TC313は、新規発足のTCで、包装機械全般の安全規格を担当する。包装機械は日本からも世界各国へ輸出しているため、安全の国際規格には大きな影響がある。また、従前の実績を踏まえた安全規格の制定が望まれる。また、現在EN規格、ANSI規格が存在しており、それを基に議論がなされると予想されるが、貿易量の大きい日本から、合理的な包装機械安全規格に関する提案をする。その基盤を構築するため、初回のキックオフミーティングに参加した。今回はキックオフが目的で、スコープの確認、体制(WG1)作り等が中心で技術的な議論はなかった。しかし、2019年1月のWG1からは規格作成に入るの、メンバーへの移行を踏まえ、適宜に対応できる体制(国際会議参加者・国内での審議)の確立が急務である。また、会議にはインターネットシステムを利用して遠隔からの参加を可能にしてほしい旨発言し、了解された。
ISO/TC313	イタリア、ミラノ	10月10日		斎藤 勲	
ISO/TC22/SC39/WG5	イタリア、ミラノ	10月17日～10月18日	6か国 15名 日JISC(2名)、米ANSI(6名、内2名Web参加)、独VDA(2名)、仏AFNOR(2名)、伊UNI(2名)、典SIS(1名)	陶山 晃正	ISO 2575へのシンボル追加について下記の通り審議された。 ・「V2x」は、事前のCIBでA,B案が同数票だったものの、反対/保留のスウェーデン、イタリアがB賛成に転じ、日本の支持するProposal Bで決定した。 ・「Location Transmission」については、EUで施行された個人情報保護法との整合性が議論となり、紛糾。今回は結論に至らず先送りとなった。 ・「DAS」シンボルについては対象とする自動運転レベルの明確化やレベル毎でのシンボルの必要性など継続議論することとなった。
IEC/TC86/SC86C/WG2	韓国、釜山	10月18日	ドイツ、アメリカ、韓国、フランス 中国、日本 (6か国・13名)	高橋 正雄	・IEC 61757-4-3の議論 日本からのNP提案(PL: 高橋正雄)IEC 61757-4-3: Fibre optic sensors –Optical current sensors based on polarimetric methodのCD回付が終了し、各国からのコメントに対する対応を審議した。 日本委員会が作成したCD変更案に対し、軽微な変更意見はあったものの、ほぼ原案通り了承され、CDVへと進むことが決定した。 CDVはWG2内に回付し、意見を反映させたのち、今年中に提出とのスケジュールを提案し、了承された
IEC/TC86/SC86C/WG2	韓国、釜山	10月18日	ドイツ、アメリカ、韓国、フランス 中国、日本 (6か国・13名)	村山 英晶	・IEC 61757-1-1の議論 本質的なコメントがあったので、SC86C plenaryに改正を申し込む。 ・IEC 61757-2-2 SC86C plenaryに3年間のreconfirmationを申し込む。 ・IEC 61757-4-3の議論 日本からのNP提案(PL: 高橋正雄)IEC 61757-4-3: Fibre optic sensors –Optical current sensors based on polarimetric methodのCD回付が終了し、各国からのコメントに対する対応を審議した。 日本委員会が作成したCD変更案に対し、軽微な変更意見はあったものの、ほぼ原案通り了承され、CDVへと進むことが決定した。 CDVはWG2内に回付し、意見を反映させたのち、今年中に提出とのスケジュールを提案し、了承された。 ・PWI 86C-35 Ed1: Future IEC61757-1-2の議論 PLをアシストする小WGを日本メンバーも含めて構成する。 ・PWI 86C-36 Ed1: Future IEC61757-3-2の議論 SEAFOMのドキュメントに基づいて規格作成をすることをSEAFOMに問い合わせしていく。
IEC/TC86/SC86C/WG3	韓国、釜山	10月16日	アメリカ、中国、ドイツ、日本、フランス、韓国、イギリス (7か国・20名)	山田 誠	審議文書17件(主な文書を以下に記載) IEC 61290-1 利得パラメータ測定法(日本担当) SD審議。2年延長決定。 IEC 61290-1-1 光スペクトラムアナライザを用いた利得パラメータ測定法(日本担当) CD案審議。修正を行った改正案のメンバ回覧が決定。 IEC 61290-1-3 光パワーメータを用いた利得パラメータ測定法 SD審議。改正が決定。 IEC 61291-4-2 広帯域光源を用いた過渡応答評価法(イスラエル担当) SD審議。2年延長決定。 IEC 61291-2 単一チャンネル光増幅器・テンプレート(日本担当) SD審議。2年延長決定。 IEC 61292-3 光増幅器分類(日本担当) 日本からの文書案を審議。CD回覧が決定。 IEC 61292-8 ハイパワーアンプ(日本担当) RVCコメント審議。発行決定。 IEC 61292-9 半導体光増幅器(日本担当) SD審議。2年延長決定。 新規文書審議 日本がSDMアンプ文書担当に決定。
ISO/TC39/SC6/WG2	ドイツ、シュツットガルト	12月12日～13日	ドイツ(6名)、イタリア(3名)、フランス(1名)、日本(2名) 計4か国、12名	佐藤 隆太	ISO 230-5(工作機械—騒音放射試験方法通則)の2nd WDについて審議した。審議の結果、WD段階のまま据え置き(3rd WD)とし、次の点を考慮して、規格文書全体を書き直すことになった。 ・ISO 230-5は、ISO主導で、ウィーン協定に組み込まれる。 ・規格では、グレード2(無響室及び簡易無響室での測定)を推奨するものとするが、日本及びドイツの主張によって、グレード3(現場における測定)についても許容する。 ・ISO 230-5にISO 8525(工作機械から放出される空気音—金属切削形工作機械の運転条件)の内容を含める形で改正を進める。 ・試験条件等はISO 8525に準拠したものとし、報告書に記載された値が実際の現場における測定値とは異なることとその理由を明記することにする。これは、日本の主張によって、加工を行わない無負荷時の測定値を用いることにしたことによる。

ISO/TC127/SC3/WG5	アメリカ、デンバー	11月28日～30日	米国(ANSI)9名 オーストラリア1名 英国(BSI)1名 日本(JISC)4名 スウェーデン(SIS)1名 計5カ国から16名	西脇 徹郎	日本と米国がISO/TC 127/SC 3/WG 5共同コンピナー兼ISO 15143共同プロジェクトリーダーのISO/ AWI TS 15143-4「施工現場情報交換—第4部: 施工現場地形データ」の作成を進めるため、平成30年7月10日～12日の東京会議に続いて、測量機器製造業のトリンプル社施設で会合し、第4部作成方針を検討した。 地形データ関連の標準化を進めるにあたり、現場座標系の扱いなど数件の検討事項について、従来、国内対応委員会の検討では、単一の施工現場でも複数座標系が存在するから、両論併記として識別を重視する方向の論議であったものを、今回国際会議では、やはり統一的に標準化すべきとの方向性となって、測量機器製造業の専門家主体の特設チームを設定して、検討を進めることとなったので、日本からも専門家を派遣して検討に参画することとした。この方向性によって、利害関係が先鋭化する懸念があるので、国内委員会で入念に対応方針を検討する必要がある。 なお、今回、改正案DTS 15143-3が投票中の「第3部: テレマティクスデータ」についても若干の検討を行ったが、投票中の案文では新規附属書Eが追加されているが、当該箇所の米国側作成担当者から最終案が反映されていないとの指摘があった。これに関して、投票期限が迫っていることもあり、今回会議に出席の親TC 127議長の示唆もあって日米は当該箇所の修正を求める反対投票を行うこととなった。投票時に他の各国意見はあるとしても、編集上の意見主体と推定されていることから、投票終了後、日本がSC 3幹事国として米国側共同PLと連携して投票結果に基づいて修正案文を準備し、再度投票に付す方向とする旨相談した(付記: 会議後、ISO中央事務局担当官からも再度のDTS投票実施すべき旨示唆された)。
ISO/TC178/WG5	オーストラリア、シドニー	1月8～10日	ドイツ(3)、オーストリア(1)、オーストラリア(4)、イタリア(1)、香港(1)、中国(1)、日本(2) 計7か国、13名	坂田 幸司	1. 各国のエスカレーター法規に関する報告 オーストラリア、欧州、中国は各委員から更新内容の報告を行った。北米、韓国、インド、南アフリカ及びロシアは欠席のため、議長から事前に報告を受けた内容の紹介があった。日本は前回の報告から更新がないことを報告した。 2. ISO/TR 14799-1(エスカレーターと動く歩道の各地域の安全規格比較) 欧州規格(EN115-1:2017)、北米規格(ASME A17.1-2016/CSA B44-16)、日本規格及び標準(2016年現在の法令等)の相互比較表で、議長から最終ドラフトが完成したことが報告された。
ISO/TC178/WG5	オーストラリア、シドニー	1月8～10日		田原 健剛	3. ISO/TR 14799-2(ISO/TR 14799-1の安全規格の要約とコメント)の更新 更新作業方針を策定し、更新作業を開始した。各国で更新内容の事前確認を行い、次回会議以降も更新作業を継続する。
IEC/TC 86/JWG 10 with TC76 設立のための準備会合	米国、ボストン及びシンシナティ	11月26、27日	IEC: TC86技術官吏(IEC RcNA) IEC: TC76技術官吏(IEC RcNA) JP: TC76/TC86/JAG10主査 以下はWeb参加 FR: TC86 chair US: TC86 assistant secretary US: TC76 vice-chair US: TC76 secretary DE: TC76 assistant secretary 以上、計8名が参加	増田 岳夫	増田が提案し、2017年のIEC/TC 86、TC 76各プレナリー会合で承認された、光通信システムのレーザ安全性に関する認識と理解を共通化するための合同諮問委員会であったが、規格を作成しないJWGの設立は認めないというIEC専門業務指針に抵触するとのクレームにより、創設が危ぶまれていたが、難産の末、Joint ad-Hoc Groupとして公式に認められた。しかし、ad-hocではなく常設諮問委員会として活動を活性化させるため、IEC北米センターでの会合を持ち、Joint Advisory Group(JAG 10)として認めさせることが出来、JAGのTitleを”Joint Advisory Group between TC 76 and TC 86”とし、Objectiveを、”For TC 86 and TC 76 to form an association to advise their TCs, SCs, WGs regarding: 1. technical aspects of fibre optics devices when preparing optical safety documents pertaining to those subjects; 2. convey requests to/from each other regarding safety aspects”と決定した。また、委員の任命は増田に一任とされた。今後2019年3月と設定した立ち上げ会合に向け、調整を測る。
IEC/TC172/SC9 及び TC172/WG7	ドイツ、ベルリン	12月12～14日	21名(6か国) 日本9、ドイツ5、フランス1、英国1、米国2、中国3	宮下 隆明	ISO14880-1 マイクロレンズアレイ 用語 ・SC9/WG7 会議で、2017年のDIS投票時に指摘されたコメントをベースに専門家間で再度議論を行った。一部書誌的な修正では済まない部分が出たため、書誌的な修正を含め約35か所の記述を変更することで合意した。 ・今後の対応を下記の通り実施する。 ・2019年1月7日: SC9セクレタリーにFDIS原案提出 プロジェクトリーダーである宮下が、修正原案を作成し年内に専門家の確認を経たのち提出 ・2019年2月7日: ISO中央事務局にFDIS原案提出
ISO/TC178/WG4/TFC	米国、アンバイン	1月29～31日	カナダ、アメリカ、イギリス、フィンランド、イタリア、スイス、日本 計7ヶ国・機関 11人	伊藤 和昌	(1)ISO 8100-1/-2、ISO/TS 8100-3の進捗 11月に編集上の最終レビューが完了し、3月15日に発行される見通しである。 (2)ISO 8100-1/-2の改訂スケジュール ベースとなるEN81-20/50のAmendment 1の完了が2021年12月と遅れるため、ISO8100-1/2/3もスケジュールを見直し、2022年6月末となる予定。 (3)CEN/TC10/AH17とのリエゾン会議 EN81-20/50のAmendment 1の詳細説明があった。 1)オルタネーティブ・ロープはAnnexとする予定であったが、利用者の利便性を考え本文中に移動した。 2)Pitが深い場合の作業床の規定を検討中。 また、日本からの改訂案に対するコメントに対し感謝の念が示された。
ISO/TC178/WG4/TFC	米国、アンバイン	1月29～31日		箱崎 勝則	
ISO/TC178/WG4/TFRA	米国、サンフランシスコ	2月4～6日	アメリカ、フィンランド、スイス、ドイツ、オーストリア、日本 計7ヶ国・機関 14人	福山 栄男	(1)各サブチームの活動進捗及び審議 1)リスクの低減のためのSIL格付け回路の寄与検討 2)既存エレベーターの安全性向上のためのリスク評価、保護対策の優先順位検討 3)エレベーター/建物インターフェースに関係する事例の評価 4)エスカレーターに関係する事例の評価 5)メンテナンスとサービス (2)その他 1)サイバーセキュリティについて、次回の総会で今後の進め方を議論する。 2)緊急事態におけるエレベーターへの障害者ニーズについて、継続してILRCSF(自立生活情報センター)と意見交換の場を設けるために、各国機関の連絡先を提供いただく。

ISO/IEC JTC1/SC31/WG1	米国、ポルダール	3月27～28日	以下の人数には、ネット会議参加を含む 日本 3名 独国 3名 中国 2名 米国 13名 英国 1名	今井 博行	① JIS X 0527国際標準化 NWIP申請を6月に延期することを報告したところ、WG1コンビーナのSprague Ackley氏から、「6月4日～7日に青島で開催されるPlenary会議に出席し、各国に直接Expertの引き受けを依頼してはどうか」と提言して頂いた。これを受け、6月のPlenary会議に出席することとした。 ② 日本提案のrMQR Code 3月にNWIP投票をパスし、早急にCD投票に進めることとなった。 ③ 次回WG1開催地 次回WG1開催地域は、アジアで中国がホスト国の予定であったが、監督官庁の許可が下りず、急遽日本がホスト国を引き受けることとした。一昨年3月の鎌倉会議に続き2回連続のホスト国となる。
ISO/IEC JTC 1/SC 17/WG 1	ニュージーランド、オークランド	2月20～22日	合計6ヶ国・14人 アメリカ、イギリス、ドイツ、フランス、ニュージーランド、日本	前田 めぐみ	・ISO/IEC 7810,10373-1はDIS投票期間中のため議論は特になし。 ・ISO/IEC 7811-6(2018)にテクニカルな項目での誤りが発覚。ISO事務局起因であるため、対応依頼。 ・ISO/IEC 18328-2は今会議前にOIB投票がドイツ発案で実施されており、日本のみ反対した。日本の意向(改定自体は反対しないが、投票への進め方に異議あり)を説明し、理解を受け入れられた。今会議をもってCD投票へすすめることで合意。 ・ISO/IEC 24789-1.2は2019年10月国際会議後にCD投票へ進めるべく、具体的な試験項目・方法について議論。日本よりカード表面摩耗試験に関するプレゼンを実施。他国でも同様に表面摩耗試験を実施・プレゼン、次回会議までに詳細をつめて規格案を提案することとなった。
ISO/IEC JTC 1/SC 35 Plenary and WGs	アイルランド、ダブリン	2月18～22日	フランス、カナダ、スウェーデン、スペイン、ドイツ、イギリス、アイルランド、中国、韓国、日本、ITU-T(10ヶ国、1機関)38人	池田 宏明	アイルランド規格協会(NSAI)でISO/IEC JTC 1 (情報技術) / SC 35 (ユーザインタフェース)及びWG会議が開催された。日本からの参加は5名であった。日本がプロジェクトリーダーを出して標準化をリードしているISO/IEC 17549“メニューナビゲーションのユーザインタフェース”では、第2部“4方向デバイスを用いたメニューナビゲーション”の軽微な改訂のDIS投票化を推進し、ISO/IEC 13251“事務機器用図記号集”の第2版のFDIS投票を開始した。新規案件であるISO/IEC 23836“自然言語選択の一般的なインタフェース”では、我が国から積極的にアイコンの案を複数提案した結果、次の段階をCD投票とすることを決めた。フランス提案のISO/IEC 22607“インタラクションモード設定用アイコン”では、WDに日本から多くの意見を提出していたが、規格開発期間超過の憂いを避けるため、改めて新プロジェクト承認投票にかけることになった。
IEC/IECEE/WG18, IEC/IECEE/PSC	ドイツ、ケルン	2月13,14日	WG18…フランス、アメリカ他 計9名 PSC…オランダ、日本他 計24名	地主 真悟	IECでは適合性評価制度に対してSelf-Fundingを求めており、IECEE CMC WG18はIECEEにおいて制度の継続的発展に向けたファイナンスを検討するWGである。過去2,3年で収入を見直したことにより、今年度以降は健全な財務状況が見込まれている。他方で、1認証あたりの費用について重複して課金している可能性が指摘され、運営状況を確認することになった。 IECEE PSCはIECEEにおける今後の方針や戦略を検討するための会議である。午前のセッションでは電気・電子分野の製造業が各国のマーケットへアクセスする際に直面する問題点とIECEEに対する期待が議論され、午後は運営の効率化のために利用されていなかったサービスの廃止を提言すると共に、UNが促進する照明器具のエネルギー効率に関する適合性評価とIECEEとの協力について議論が行われた。
ISO/313/WG1	ドイツ、マンハイム	1月16、17日	イタリア、ドイツ、アメリカ、中国、日本: 合計15名	江口 孝男	ISO/TC313/WG1は、EN415-10(包装機の安全性 一般要求事項)を元に論議が進められた。まずは包装機のC規格のリスクアセスメント手法としてどこまで規格化をするかが論点となった。日本は、日本から提案した「日本の基本方針としては、特別な理由がない限り、A規格、B規格をそのまま使うこととしたい。(数値なども変更しない)」により、AB規格で十分であり、多岐に渡る包装機械ではC規格を制定するのは困難と考えていたが、PMMIからはC規格を詳細に決めたいとの意見が出される。ANSI/PMMI B155. 1 がリリースされ、これの一部流用を求められた。 討議内容はWG1事務局がまとめ、ドラフト版を5月ごろに送る予定。これに対するコメントは2019年8月31日までに各国からまとめて提出。その後WG1事務局から10月22日までに各国へ配布される。 日本の行動としては、5月に届くドラフト版について、(社)日本包装機械工業会のISO国内審議委員会による意見だしとまとめを10月までに実施する必要とする。 ・次回は2019年10月22、23日 ミラノで行われる。(10/22WG1会議、10/23全体会議)また、次回WG1は2020年5月5、6、7日 フランクフルトで開催予定となった。